

理科シラバス 中学2年

1. 学習の到達目標と評価の観点

	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
(科目) 理科Ⅱ	2 単位	第 2 学年	教科書：未来へひろがるサイエンス（啓林館） 問題集：サイエンスワーク 1・学習ノート 1（啓林館） ※スタディサプリの通年講座から「[新版] 中 2 理科(共通版)」を視聴すると、教科書に対応した講座を視聴することが可能。
学習の到達目標	①自然の事物・現象に興味関心を持ち、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 ②観察、実験などを通して、結果を比較・考察し科学的に探究する力を養う。 ③生物や生物による現象、自然環境などに主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を養う。		
評価の観点	科学的事実がどのような仕組みで関わりあっているのか、疑問を持ち、知識を活用し、他者と協働しながら、その疑問を解決しようとする姿勢がある。＜主体性・多様性・協働性＞ 科学的法則や事象について理解を深めるべく、実証したり、それぞれの法則性や事象を比べたり、もしくは互いのつながりや影響を探究したり、自分の考えを発信したりすることができる。＜思考力・判断力・表現力＞ 科学的事象や、実験もしくは観察結果について考察をする際、その資料を読みとるために必要な知識・技能を身につけられている。＜知識・技能＞		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

- A：「十分満足できる」状況と判断されるもの
 B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
 C：「努力を要する」状況と判断されるもの
 D：未提出，未実施

2.学習内容及び評価方法

月	単 元	学習のねらい	実験実習・学習のポイント
一学期中間	1章 生物の体をつくるもの 2章 植物の体のつくりとはたらき	生物の組織などの観察を行い、生物の体が細胞からできていること、および植物と動物の細胞のつくりの特徴を見だし理解する。 植物の葉や茎、根のつくりと、光合成、呼吸、蒸散のはたらきに関する実験の結果とを関連づけて理解する。	生物の組織などの観察。 植物の葉や茎、根のつくりについての観察。 光合成、呼吸、蒸散のはたらきに関する実験。
一学期期末	3章 動物の体のつくりとはたらき 4章 動物の行動のしくみ	動物の体が必要な物質を取り入れ運搬しているしくみを観察・実験の結果と関連づけて理解する。また、不要となった物質を排出するしくみがあることを理解する。 動物が外界の刺激に適切に反応している様子の観察を行い、そのしくみを感覚器官、神経および運動器官のつくりと関連づけて理解する。	消化や呼吸、血液の循環についての観察。 動物が外界の刺激に適切に反応している様子の観察。
二学期中間	1章 地球をとり巻く大気のように 2章 空気中の水の変化	地表にあるもののすべてに大気圧がはたらいっていることを理解し、身のまわりの大気存在を認識する。また、霧や雲のでき方を、空気中の水の変化と関連づけて理解する。	気象観測 湿度の測定 雲の発生実験 露点の測定の実験
二学期期末	3章 天気の変化と大気の動き	気圧配置によって、大気の動きが生じることを理解する。また、日本付近の高気圧や低気圧の移動と、それに伴う天気の変化を、地球規模の大気の動きの一部として捉える。	天気図の作成
学期末	4章 大気の動きと日本の四季	大陸と海洋の温度差によって生じる大気の動きが、日本の気象に影響を与えることを理解する。さらに、日本付近で盛衰する3つの気団と関連づけながら、日本の四季の天気の特徴とそれが生じるしくみを理解する。	天気予報の気圧配置の情報から、天気を推定する。 自然災害への備えについて考える。

評価の観点及び内容	評価方法（具体例）
科学的事実がどのような仕組みで関わりあっているのか、疑問を持ち、知識を活用し、他者と協働しながら、その疑問を解決しようとする姿勢がある。＜主体性・多様性・協働性＞	実験・実習課題提出
科学的法則や事象について理解を深めるべく、実証したり、それぞれの法則性や事象を比べたり、もしくは互いのつながりや影響を探究したり、自分の考えを発信したりすることができる。＜思考力・判断力・表現力＞	実験・実習課題提出 定期考査
科学的事象や、実験もしくは観察結果について考察をする際、その資料を読みとるために必要な知識・技能を身につけられている。＜知識・技能＞	定期考査